

第3学年 社会科学習指導案

- 1 単元名 はたらく人とわたしたちの暮らし「店で働く人」（東京書籍「新しい社会 3・4 年上」pp. 48-67）

2 単元について

- 本単元は、学習指導要領の内容（2）地域の人々の生産や販売について、「ア地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること」「イ地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などとの関わり」について調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする単元である。本小単元では、販売に関する仕事を中心に学習を進め、主にスーパーマーケットで働く人々を取り上げる。スーパーマーケットは、消費者と販売者という 2 つの立場が明確であり、児童にとって販売者が消費者との関係から行っている工夫や努力を調べることと適した教材であると考ええる。スーパーマーケットの仕事を調べることを通して、消費者の願いに応え売り上げを伸ばそうと販売者が工夫や努力をし、自分たちの生活を支えていることについて考えることをねらう。

- 図 1 は、本学級の児童の社会科に関する実態調査である。本学級の 80% の児童は「社会の授業が好きだ」という項目では「好き」「どちらかというとき好き」と答えている。また 88% の児童は「社会の授業で、自分で調べたり、考えたりすることをはっきりわかって学習している」という項目では、「当てはまる」「だいたい当てはまる」と答えている。1 学期には学校の周辺について見学調査したり、佐賀市の地図から佐賀市の様子について調べたり考えたりする活動を行った。児童が佐賀市の地図を見て気付いたことを「調べるべきこと」として調べ学習を行わせたことで、児童は授業で調べたり考えたりすることをはっきり分かって参加していると感じたのだと考えられる。一方「社会の授業で、自分で調べてわかったことをもとに話し合っている」という項目では「当てはまる」「だいたい当てはまる」と答えた児童は 72% であった。「相談してごらん」と投げ掛けてはいるものの、話し合わせて自分の考えを吟味するような活動をするには至っておらず、他者の考えを基に自分の考えを再構築するような学習にはつなげられていない。

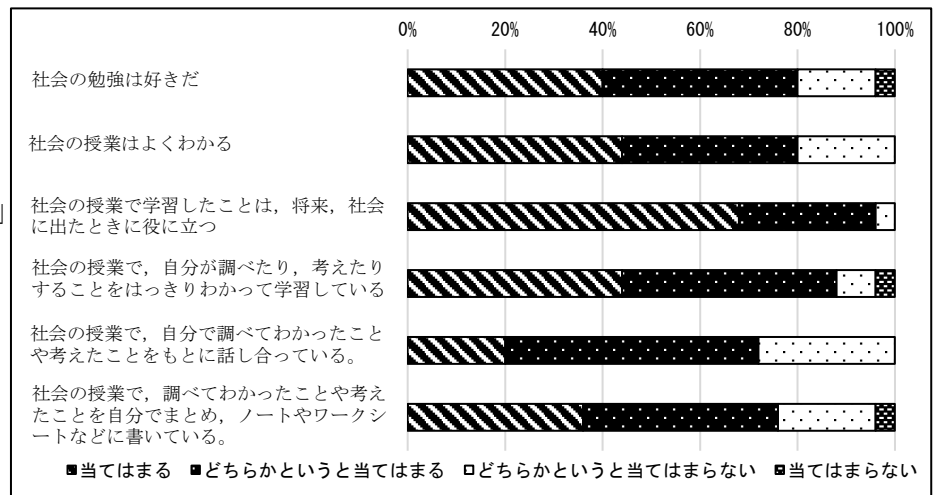


図 1 児童の社会科に関する実態調査

目では、「当てはまる」「だいたい当てはまる」と答えている。1 学期には学校の周辺について見学調査したり、佐賀市の地図から佐賀市の様子について調べたり考えたりする活動を行った。児童が佐賀市の地図を見て気付いたことを「調べるべきこと」として調べ学習を行わせたことで、児童は授業で調べたり考えたりすることをはっきり分かって参加していると感じたのだと考えられる。一方「社会の授業で、自分で調べてわかったことをもとに話し合っている」という項目では「当てはまる」「だいたい当てはまる」と答えた児童は 72% であった。「相談してごらん」と投げ掛けてはいるものの、話し合わせて自分の考えを吟味するような活動をするには至っておらず、他者の考えを基に自分の考えを再構築するような学習にはつなげられていない。

1 学期の学習で佐賀市について調べたことを地図にまとめて紹介するという活用場面を設けた。その際、全員の児童が「佐賀市の南側は低くて平ら」「佐賀市の南側は田が多い」などといった具体的な知識を活用できたが、「佐賀市の南側は低くて平らだから田が広がっている」といった具体的な知識を関連させて考えた知識を活用することができた児童は 6 人（22%）にとどまり、事実を関連付けたりまとめたりして表現するには至らなかった。また第 3 学年ということもあり、今年度から社会科の学習を始めたため、調べ学習に慣れていない。

図 2 は、児童に 2 週間の買い物調べを行わせた結果である。買い物の多くはスーパーマーケットに行っていることが分かる。またその店に買い物に行った訳を調べると、「近いから」「通り道だから」という利便性、「特売日だから」「お肉が安いから」という価格面、「野菜が新鮮だから」という鮮度面などが挙げられていた。スーパーマーケットには保護者と一緒に行くことが多く、児童にとってスーパーマーケットに行くことは自分の生活と関係が深いと考えられる。

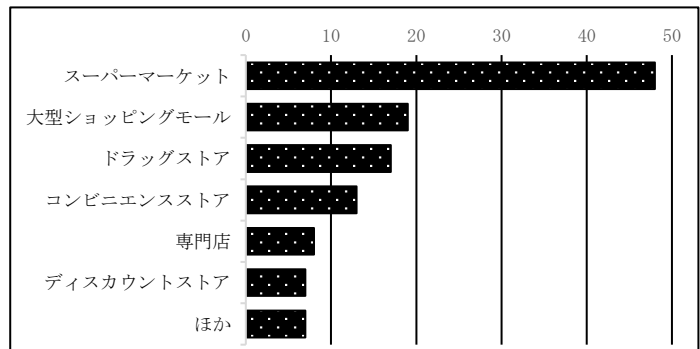


図 2 児童の買い物調べの結果

しかし、実際に食事の材料を買うなどの消費活動をするのは保護者であり、消費者としての意識は薄いと考えられる。

- 指導に当たっては、まず問題把握の過程では、児童が自ら調べたいと思うように、前単元の「佐賀市の様子を調べよう」から、「商店」が様々な施設の中でも最も身近な存在であることに気付かせる。また、買い物調べの結果を基に、スーパーマーケットをよく利用していることに注目させる。そして、他にも店があるのになぜスーパーマーケットにはお客さんがたくさん行くのだろうという疑問を持つことができるようにする。様々な予想を引き出しながら、スーパーマーケットはたくさんの人が集まる工夫をしているのではないかという予想に焦点化することで、学習問題Ⅰ「スーパーマーケットにお客さんがたくさん来る工夫を調べよう。」を設定する。また、児童が学習問題Ⅰについて調べる意欲を持つことができるように、学習問題Ⅰについて調べたいことを引き出していく。

課題追究の過程では、児童が主体的に調べることができるように、学習問題Ⅰ設定後に挙げた調べたい 4 つの内容（「商品」「店内」「店員」「店（売り場）の外」）を中心に調べる時間を取る。その際、児童が調べたい 4 つの内容を仲間分けした図を掲示し、本単元の学習に見通しを持って取り組むことができるようにする。本学級の児童は、調べ学習に慣れていないため、調べるための資料は教師が限定しておく。個人での調べ学習の後、調べたことを確認し、付け加えたり修正したりできるように、ペアになって話をする時間を取る。また、調べ学習においては、毎時間、学習問題Ⅰについて考えさせることで、スーパーマーケットは消費者である地域の様々な人々（子供、主婦、働いている人、高齢者など）に向け、様々な工夫や努力をしていることに気付かせていく。さらに、地域の様々な方の願いに応じた努力や工夫は、店の売り上げを上げるためであることを考えることができるようにする。調べ学習の最後には実際にスーパーマーケットへ見学に行き、調べたことが実際の場面に生かされていることを確認したり、分からないことやより調べたいことをインタビューしたりして、身に付けた知識の定着を図るようにする。そして、スーパーマーケットの方より「『売り上げ』を伸ばすために、より地域の方に来ていただくためのよいアイディアはないか」と投げ掛けてもらうことで、学習問題Ⅱ「どうしたらスーパーマーケットにもっとお客さんが来るようになるだろう」を設定する。

課題解決の過程では、地域の地図を見てスーパーマーケットのお客さんとして考えられる地域の住民を基に、具体的なお客さん像を決めさせる。そして、これまでの学習内容やドラッグストアやコンビニエンスストアなどの販売の工夫を参考に、スーパーマーケットに提案する工夫を考えさせる。提案する工夫を比較しながら考えることができるように、観点「お金が掛からない」「時間が掛からない」「お客さんの願いを叶える」を提示する。学級で決定した提案内容は、実際にスーパーマーケットに伝えることを通して、社会とのつながりを実感させる。このような学習活動を通して、自分も消費者・地域社会の一員であることやスーパーマーケットなど販売の仕事をしている人々に自分たちの生活が支えられていることに気付かせるようにしていきたい。

3 単元の目標

スーパーマーケットで働く人々の様子を資料や見学を通して調べ、ワークシートなどにまとめ、販売の仕事が自分たちの生活を支えていることや販売されている商品を通して他地域と関わっていることが分かり、販売の仕事をする人が売り上げを高めるために消費者の願いに応じた工夫や努力をしていることを考えるようにする。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
○販売の仕事の様子に関心をもち、意欲的に調べ、販売の仕事と自分たちの生活と関わりを考えようとしている。 ○販売の仕事と自分たちの生活との関わりから、より販売の促進につながる提案を考えようとしている。	○販売の仕事の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ○販売の工夫について、消費者の願いや目的、自分たちの生活と関連付けて考え適切に表現している。	○観点に基づいて見学したり資料を活用したりして、販売の仕事の様子について必要な情報を集め、読み取っている。 ○働く人の様子や販売の工夫について調べたことをワークシートにまとめている。	○地域には販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていることを理解している。 ○販売に見られる仕事の特色や国内の他地域との関わりを理解している。

5 単元計画（全12時間 本時 5/12）

過程	主な学習活動	教師の働き掛け(○)	評価(・)評価の観点【】	時配
学習の問題をつかむ	○「買い物調べ」の結果から、スーパーマーケットをよく利用していることに気付く。 ○学習問題Ⅰを設定する。 ○学習計画を考える。	○児童の本単元への学習意欲を高めるため、「買い物調べ」の結果を見せ、スーパーマーケットを多く利用していることに注目させる。 ○スーパーマーケットについて興味を持たせ、学習問題Ⅰの設定や学習計画につなげるため、たくさんの商店があるのに、他の店よりもスーパーマーケットを利用しているのはなぜかという疑問を持たせ、その理由を予想させる。 ○様々な予想を引き出しながら、スーパーマーケットはたくさんの人が集まる工夫をしているのではないかという予想に焦点化し、学習問題Ⅰの設定につなげる。	・販売の仕事の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 【思】	1
	スーパーマーケットにお客さんがたくさん来る工夫を調べよう。(学習問題Ⅰ)			
	○スーパーマーケットが利用されている理由を知るために、スーパーマーケットの商品にはどのようなものがあるか調べる。	○教科書や副読本から調べたことを通して以下のことに気付かせるようにする。 ・スーパーマーケットには様々な商品が売られていること。 ・店内には、客が分かりやすいように陳列や表示を工夫していること。 ・店員が多くの仕事を分担していること。 ・店外には、たくさんの客を集めるために広い駐車場や大きな看板があること。	・販売の仕事に関心をもち、意欲的に調べている。【関】 ・働く人の様子や販売の工夫について必要な情報を読み取り、ワークシートにまとめている。【技】	

調 べ る	○スーパーマーケットが利用されている理由を知るために、店内の様子について調べる。 ○スーパーマーケットが利用されている理由を知るために店員の仕事について調べる。 ○スーパーマーケットが利用されている理由を店外の工夫を調べる。	○スーパーマーケットの工夫の目的を考えさせることを通して、お客さんの願いに応えていること、集客し売り上げを伸ばそうとしていることに気付くことができるようにする。	・販売の工夫について、消費者の願いや目的と関連付けて考え適切に表現することができるようにする。【思】 ・販売に見られる仕事の特色や国内の他地域との関わりを理解している。【知】	4 【本時5/12】
	○スーパーマーケットが利用されている理由を知るために調べたことを実際に見学に行き、確かめる。	○教科者や副読本で調べた工夫を、スーパーマーケットの見学を通して実際に確認させる。 ○スーパーマーケットの様々な工夫の目的について、疑問を持つことができるようにする。 ○店長より「売り上げを高めるため、もっとたくさんのお客さんに来てもらいたい」という願いを話してもらい、学習問題Ⅱの設定につなげる。	・観点に基づいて見学して、販売の仕事の様子について必要な情報を集めている。【技】 ・販売の仕事の様子について、学習問題を考え、表現している。【思】	2
	どうしたらスーパーマーケットにもっとお客さんが来るようになるだろう(学習問題Ⅱ)			
考 え ・ ま と め る	○見学して分かったことをまとめるために、新聞をつくる。	○「商品」「店内」「店員」「店の外」について、スーパーマーケットの工夫をまとめさせ、調べてきたことを整理させる。	・地域には販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていることを理解している。【知】	2
	○提案する集客の工夫に関する「お客さん像」を考える。	○「お客さん」がどのような人を指すのかを考えることができるように、店内の様子や売っている商品から予想させたり、A町に住んでいる人について想起させたりする。	・集客の工夫を基に、どのようなお客さんに向けられたものなのか考えている。【思】	
	○スーパーマーケットに提案する集客の工夫を考える。	○具体的な集客の工夫を考えることができるように、前時に決めた「お客さん像」を確認する。 ○提案する集客の工夫を考える際の参考になるように、家族に聞いたり、近隣の商店の工夫調べたりするように助言する。	・販売の仕事と自分たちの生活と関わりを考えようとしている。【関】 ・販売の売り上げのための工夫や努力を、消費者の願いや目的、自分たちの生活と関連付けて考え適切に表現している。【思】	1
	○スーパーマーケットに提案する集客の工夫を決める。	○実際に提案する工夫を具体的に決めることができるように、「お金が掛からない」「時間が掛からない」などの観点を示す。	・観点を基に、スーパーマーケットの売り上げのための工夫について、提案内容を考えている。【思】	1
	○提案した集客の工夫について、スーパーマーケットからの意見を確認し、再度検討する。	○集客の工夫について再度付け加えたり、書き直したりすることができるように、スーパーマーケットからの意見を基に、再度検討する時間を取る。	・販売の仕事と自分たちの生活との関わりから、販売の促進につながる提案を考えようとしている。【関】	1

6 本時の目標

スーパーマーケットで働く人は、消費者の願いや目的に合わせて様々な販売の工夫や努力をしていることを考え、表現することができるようにする。
(社会的な思考・判断・表現)

7 展開(全12時間 本時 5 / 12)

学習活動	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 本時のめあてを持つ。 〈学級全体〉	○本時の学習の見通しを持つことができるように、学習問題Ⅰを確認する。 学習問題Ⅰ スーパーマーケットにお客さんがたくさん来る工夫を調べよう。 ○主体的に学習に取り組むことができるように、児童が調べたい4つの内容を仲間分けした図に注目させ、本時に調べることを考えさせる。 ○仲間分けした図を基に、本時は「店外」について調べることを確認する。
本時のめあて 店外には、どんな工夫があるか調べよう。	
2 店外にはどんな工夫がありそうか予想する。 〈学級全体〉	○学習の見通しを持つことができるよう、店外の工夫に関する写真を見せ、工夫されていていそうなところを探すように促す。 ○調べる意欲を高めるために、なぜその工夫がされているか予想を引き出す。
3 教科書や副教材から、店外の工夫について調べる。 〈個→ペア〉	○調べる意欲を高めるために、写真から探した工夫は予想であることを確認し、予想が本当かどうか確かめるために調べることを伝える。 ○店外の工夫について調べ学習を効果的に進めるため、教科書や副読本のページを限定して示したり、事前に準備したスーパーマーケットの写真を提示したりする。 ○調べ学習に対して自信を持って取り組むことができるように、個人で調べた後に、ペアで確認する時間を取る。
4 調べた工夫を発表する。 〈学級全体〉	○調べた工夫を全体で共有することができるように、ペアで確認した後に、全体で発表する時間を取る。 ○店外の工夫が様々なお客さんに向けられたものであることに気付くことができるように、児童が発表した内容を「体の不自由な方に向けられたもの」「小さな子供連れの方に向けられたもの」などに分けて板書していく。
5 店外の工夫についてまとめる。 〈個→ペア〉	○スーパーマーケットは、店外においてもお客さんのために様々な工夫をしていることに気付くことができるように、調べたり考えたりしたことが、「買い物調べ」における「そのお店を利用した理由」と似ていることに気付かせる。 ○本時で学習したことをまとめることができるように、「たくさんの人」「便利なように」などのキーワードを挙げ、キーワードを使ってまとめるように伝える。 ○スーパーマーケットの集客の工夫が「たくさん買ってもらうため」「売り上げのため」であることに気付くことができるように、本時までの学習を振り返る時間を取る。 ○学習問題Ⅰについて、どのような工夫があったかを想起させ、自分の言葉でノートに書かせる。【評価】

6 店外の工夫について、実際にスーパーマーケットで調べたいことを書く。〈個〉	○本時の学習だけでなく、今までの学習を想起して考えることができるように、児童の疑問をまとめた表を見せ、どのような工夫があったのかを確認する。 ○数名に考えを発表させることで、自分の考えに付け加えたり修正したりできるようにする。 ○店外の工夫について調べる意欲を高めるため、本時で調べたことを基に、更に調べたいことや分からなかったことを書く時間を取る。 ○本時まで「商品」「店内」「店員」「店外」について調べてきたことを実際に見たり、聞いたりするために次時でスーパーマーケットに見学に行くことを伝える。
---	--

8 本時の評価

評価規準	スーパーマーケットで働く人は、消費者の願いや目的に合わせて様々な販売の工夫や努力をしていることをノートに記述している。（社会的な思考・判断・表現）		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	スーパーマーケットで働く人は、消費者の願いや目的に合わせて、商品、店内、店外に様々な工夫や努力をしていることを記述している。	スーパーマーケットで働く人は、消費者の願いや目的に合わせて、店外の工夫をしていることを記述している。	(B)に達していない記述
→(B), (C)と判断した児童への支援		→店外だけでなく、商品、店内などの工夫も書くように促す。	→「何のために」「どんな」工夫があったかを書いてみるよう促す。
評価方法	ノートの記述		